季刊

博物館だより

97

FUKUSHIMA MUSEUM QUARTERLY

URL http://www.general-museum.fks.ed.jp

ふくしま森林文化企画展

森に生き山に遊ぶ！

— ふくしまの森林文化 —

福島県立博物館

ふくしま森林文化企画展

森に生き山に遊ぶ！―ふくしまの森林文化―

二〇一〇年六月二二日(土)～八月二二日(日)

入場無料

この展覧会は森林環境税を活用して開催します

スギ人工林・金山町

この展覧会は福島県内の森について考え、思いをめぐらしてみようとするものです。

まず、森はどのように分布し、どんな樹木が生えているか、という基本的な情報からはじめます。いわば、自然科学的な基礎知識です。県内の森林分布図を前にすると私たちが意外なほどみどりに囲まれているということが実感できるでしょう。そのなかにはブナの原生林もあれば、人の手が加わっていた雑木の林もあるでしょうし、見事な杉の人工林もあります。そうした森と樹木のいろいろを見ていただきます。

次に、この森でどんなくらしが営まれていたかということに目を移します。山の木を切り倒して材木として出荷するだけが仕事ではありません。木地師の手により椀や盆、シャクシやヘラといった道具が作られていました。山菜や茸といった山の幸も森がもたらしてくれるものです。ゼンマイは保存できるように加工して出荷しました。綿は弾力があるので手毬の芯に使いました。動物を狩ることも森や山での仕事でした。くらしは時代と場所によりいろんな展開をしていました。その一部をご紹介します。

ところで、くらしには楽しみもあります。奥深い会津では芝居が盛んでした。今でこそ桧枝岐村にひっそりと残されているだけになってしまいましたが、かつてはおく会津各地に芝居の舞台があり芝居の一座があり、公演が行なわれていたのです。こうした楽しみが可能であったことの経済的な理由のひとつが麻がもたらした富だったとおもわれます。その時代は山深い地とはいえ、そこは江戸や京大阪とつながれていた場所でもあったのです。

森でのくらしと楽しみ、その両方を見ていただければ、森というものへの見方もまた新たになるのかもしれません。

（民俗担当　榎　陽介）

展覧会の構成

Ⅰ　ふくしまの森林

トチの木や桐の木の大きな丸太をはじめ、県内市町村の木を使ったパズル、森林分布図、木材サンプルなどなど、森林の基礎知識はここで。

（表紙）恵みの森・只見町布沢

大蔵寺　木造金剛力士立像

明光寺　木造十一面観音立像

ゼンマイ綿のワンピース

ふくしま森林文化企画展は県内５つの施設が連携して開催します

福島県文化財センター白河館まほろん
6/26～8/29「古代の森と人との共生」
0248-21-0700
福島県文化センター歴史資料館
6/26～8/29「森と人の歴史をたずねる」
024-534-9193
アクアマリンうおのぞき～子ども漁業博物館～
6/26～8/22「森と海―森と海が育む命―」
0246-73-2525
ふくしま県民の森フォレストパークあだたら
6/26～8/31「森林との共生をめざして」
0243-48-2040

Ⅱ　森のくらし

一本の木から彫りだされた仏像。樹木の霊が仏様の姿となって：。木地師、炭焼き、コバ削り、シャモジ作りなどのいろんな仕事。麻の栽培と歌舞伎の世界。奥会津歌舞伎の分布図。そして、ゼンマイの綿のワンピースとカラムシのワンピース。

Ⅲ　森林環境を学ぶ

森林環境学習の成果を30を越える会津地域の小学校が発表します。

関連行事

樹木観察会「鶴ヶ城の樹木」
講師：福島県植物研究会会員、会津生物同好会会員　蓮沼憲二さん
日時：七月一一日(土)一〇時～一二時　鶴ヶ城

対談「山の技術と資源の活用―吉野と熊野のフィールドから―」
講師：東北学院大学講師　加藤幸治さん　奈良県教育委員会 森本仙介さん
日時：七月一七日(土)一三時三〇分～一五時　講堂

講演「森は動いている―樹木の長い一生を科学する―」
講師：東北大学大学院生命科学研究科教授　中静 透さん
日時：七月一八日(日)一三時三〇分～一五時　講堂

対談「会津の森を語りあかそう」
講師：山口大学教授　湯川洋司さん　当館専門員　佐々木長生
日時：八月一日(日)一三時三〇分～一五時　講堂

実演「いろいろ実演いろいろ体験　曲げ輪っぱ・手挽きろくろ・根曲がり竹」
講師：各伝統技術保持者
日時：八月八日(日)一一時～一五時　実習室・体験学習室

イベントレポート

企画展「千少庵と蒲生氏郷」関連事業

記念講演会「千家の再興―少庵と氏郷―」

日時：五月一日(土)　一三：三〇～一五：〇〇
講師：茶道資料館副館長　筒井紘一さん

茶道史の研究者であり、企画展の共催館である茶道資料館の副館長・筒井紘一さんに、千利休の息子・少庵の生涯や、利休自刃後の千家再興までなどについてご講演をいただきました。千家を再興した後、京都での少庵はひっそりと身を潜めていたかのような印象をこれまで持っていましたが、京都の公家たちと積極的に交遊するなど利休の茶の湯を継承する茶人として活動をしていたことなどもお話しいただきました。また、利休や少庵の人柄を偲ばせるエピソードを織り交ぜたお話しは、茶の湯の大成者、千家再興の功労者と呼ばれる二人を身近に感じさせ、時折会場からは笑い声も聞かれました。

展示室講座第四回「茶の湯にみるやきもの」

日時：五月三〇日(日)一三：三〇～一五：〇〇
講師：茶道資料館学芸員　降矢哲男さん

会期中四回に渡って行った展示室講座。企画展を担当した当館と茶道資料館学芸員が、それぞれの専門分野のテーマを設定し、企画展をより深く楽しむための講座を行いました。

第一回「氏郷の生涯―『蒲生記』を読む一」、第三回「氏郷以降の蒲生家―『蒲生記』を読む二」は当館歴史分野の学芸員高橋充が担当。第二回「会津の茶の湯」は当館美術分野の学芸員小林が担当しました。最後を飾って下さったのは茶道資料館学芸員降矢哲男さん。ご専門の考古学と茶道史の観点から、茶の湯で用いられるやきもののルーツなどを東アジアという広い視点から紹介。日本でもてはやされたやきものが、どのような背景で生まれ、日本に渡ってきたのかがよくわかりました。講堂での講義終了後、展示室に会場を移してのギャラリートークでも、多くの方が熱心に耳を傾け、貴重な展示品の数々の魅力を改めて感じてくださったようでした。

御薬園茶懐石講座「江戸時代後期の会津の茶会記から」

日時：五月九日(日)一一：〇〇～一四：〇〇
講師：伝統料理研究家　平出美穂子さん
　　当館学芸員　小林めぐみ

様々な日本文化の要素を内包する茶の湯の魅力を知っていただこうと、会期中さまざまなアプローチの関連事業も行いました。その一つとして、会津若松市観光公社の共催をいただき、御薬園を会場に行ったのは、江戸時代の会津の茶懐石を復元した茶懐石講座。二〇〇年前の会津の人々が、どのような茶懐石を楽しみ、どんな食文化を持っていたのか。伝統料理研究家の平出美穂子さんに料理の復元をお願いし、解説をお聞きしました。募集開始から間もなく定員に達した人気講座となり、参加者の方からも大変好評をいただきました。

（美術担当　小林めぐみ）

森と生き物のくらし

Q&A

回答者 自然担当 小澤 義春

Q1：ブナの幹に緑色や白色のモザイク模様が見られます。この正体は何ですか。

A1：地衣類と呼ばれる生き物です。これは菌類と藻類の共生生物です。菌類と藻類は互いに養分のやり取りをして共に利益を得ています。木の幹や岩の上、地面など至る所に樹状、葉状、痂状（かさぶた状）の地衣類を見ることができます。鶴ヶ城の石垣にも見られます。白い樹肌を下地にしてブナの痂状地衣類は目立ちます。痂状地衣は基物の表面に固着します。白や灰色、暗緑色などの色を呈する痂状地衣がブナ樹幹に着生することにより、モザイク模様が現れるのです。ブナには地衣類のほかにコケ植物、藻類も着生しています。こんな所にも、ブナ林の生態系の豊かさの一端を垣間見ることができます。

Q2：生物多様性のニュースの中で「緑の回廊」という言葉を聞きました。生物多様性と緑の回廊はどんな関係があるのですか。また福島県には設定されているのですか。

A2：回廊とは折れ曲がって続く長い廊下のことで、森林生態系保護地域や森林生物遺伝資源保存林などを結ぶ森林地域を指して「緑の回廊」と言います。林野庁が設定しています。「森林生態系保護地域」や「森林生物遺伝資源保存林」は森林とそこの森林生態系を保護する目的で林野庁が国有林内に指定したものです。福島県内には飯豊山周辺と奥会津、それに吾妻山周辺に森林生態系保護地域があります。また越後山脈と阿武隈高地の二地域に森林生物遺伝資源保存林が指定されています。

これらの地域は分断・隔離しています。そのため、行動範囲の広い動物の保護や広範囲に生息・生育することでもたらされる動植物の遺伝的多様性を確保するには十分ではありません。様々な生き物が存在する多様性、ひとつの種の中にも個体差がある多様性、ある地域の環境とそこに生きる生物同士のつながりに見られる生態系の多様性を保全するためにも保護森林域の拡大が望まれます。その意味で野生動植物が自由に移動できるように設定された「緑の回廊」は生物多様性の保全と関わりがあります。

福島県には会津山地緑の回廊と鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊があります。会津山地緑の回廊は全国24ヶ所の緑の回廊の中で最大規模です。

Q3：私の市ではアカマツが「市の木」になっています。県内の市町村はどんな木を〝まちの木〟に選定しているのですか。

A3：県内59市町村ではそれぞれ親しみを込めて〝まちの木〟を選定しています。最も多い樹種はアカマツで13市町村、次いでスギ6市町、三番目は種を特定しない「マツ」で5町村となっています。カシワ、ヤマザクラ、ヤナギなど12種はひとつの自治体のみが選定しています。

選定理由として、身近で馴染み深いこと、他地域で見られない当該地域特有の木であること、町名に由来する木であること、町の伸展を樹木や木材の性質にあやかるためなどを挙げています。ともかく〝まちの木〟は地域住民と樹木との深い交わりを象徴していると言えそうです。

ヤマザクラ
褐紅色を帯びた新葉とともに白に近い薄紅の花が咲く。ヤマザクラは郡山市の「市の木」に選定されている。

ブナ樹幹の地衣類
痂状地衣が斑状の模様を呈する。

※写真はともに喜多方市山都町黒森山。

ふくしま森林文化企画展
「森に生き山に遊ぶ！
―ふくしまの森林文化―」
会期 平成二二年六月二六日（土）～八月二二日（日）
場所 福島県立博物館　企画展示室　入場無料

研究ノート

宮島のしゃもじ

榎　陽介　民俗担当

しゃもじとの出会い

二〇〇二年一〇月も終わりごろ、伊南村、つまり現在の南会津町の耻風地区に出張しました。この地区にある家の蔵の中のものを博物館に預けたいという話があったためでした。入った蔵の一階はソバの製粉機が置いてあって、二階にまで舞い上がった粉のために、うっすらと白くなっているような状態でした。さっそく担当する民俗資料を調べはじめたのですが、目に留まったのは、木製の箱の中に大量に入れてあるしゃもじでした。この地域では汁をよそう杓子や飯を椀に盛るヘラを作っていたことは理解していました。つまり売りものの製品が入っていたわけです。よくみると小さな穴があいていました。虫食いの穴のようです。製品にしてみたのだけれども、虫食いの穴があいていて売りものにならなかったためここに残されていたのか、それとも売れ残ってしまいいつの間にか虫に食われてしまったのでしょうか。

しゃもじ

話によるとこの家で、粗い状態のものをあつめ、これらの粗製品を面取りなどをほどこしてから出荷していたのだといいます。ところが、このほかに焼印があるのです。数えてみたら三五点も。中には宮島とか古峯とかの文字が見えるものも。ということは注文先の焼印を押して、完成品として出荷していたことになります。

宮島といえば、広島県の宮島でしょう。「敵を飯とる」ということで、大きなシャモジを担いで行進する兵隊たちの写真を見た記憶があります。高校野球の応援に登場したのもうっすらと覚えています。

焼印の種類

焼印は、宮島八点、古峯六点、天狗の顔三点、その他は一点ずつで、土湯温泉、木賊温泉、湯ノ花温泉、芦の牧温泉、塩原温泉、甲子温泉などでした。天狗の顔の絵は古峯のことでしょうから、宮島と古峯でかなりの部分を占めたということが分かります。「会津地方の山村生産用具Ⅰ」（田島町民具研究会）によると、杓子ぶちは明治の末から大正にかけてが最盛期でその後衰退したとあるので、シャモジを、しかも焼印を押した参詣記念、観光土産として出荷するということは、昭和、おそらくは戦後のことではないでしょうか。た

焼印：宮島

焼印：古峯

またま同じ旧伊南村の大桃地区の方からも「宮島」の焼印をいただいていたので、どうもこの地区ではかなり広まっていただろうということが分かります。

山での生き方

杓子作りは山の栃木県側の湯西川などでもよく作られていました。山の資源である樹木から製品を作るということで、一時期は盛んだったのでしょう、それが観光などの土産物としての注文を受け焼印を押して出荷するというように変化してきています。この変化は生産者側の問題ではなく、消費する側の変容がもたらしたものだとも言えるでしょう。汁をよそう木製の杓子はもういらないという変化に対応し、同じ素材は使っていても、実用品でもあるけれども、記念品でもあるというような付加価値のついたものへと、ハンドルを切っています。こうして、外の世界が変わることにすばやく対応して、姿を変えつつ製品を作るというのが本来の山での生き方の流儀だったのだろうかと。山の中の生活も外とは切り離されることなく常に随伴しつつだったのだろうと。その走るときの時代との距離の取り方にはいろんなやり方があったはずだとも。いろいろ考えを巡らせてしまいます。

焼印：塩原温泉

焼印：天狗の顔

トピックス

テーマ展

昭和のくらし
―あの頃の家電製品―

会　期：平成22年６月８日（火）～平成23年３月21日（月）
会　場：常設展部門展示室:近現代「戦後の社会」
観覧料：一般・大学生／ 260円　小中高校生／無料

日本人のライフスタイルに革命をもたらした家電製品。家電は昭和の主役であり豊かさの象徴でした。今回のテーマ展では、昭和30年代を中心に当館所蔵の家電資料を展示します。けんぱくで、あの頃の家電製品とぜひ再会を。

展示風景

国産第１号電気釜

秋の企画展　予告

漆のチカラ
―漆文化の歴史と漆表現の現在―

会津地方での漆の利用は縄文時代に始まり、各時代を通じてさまざまな形で用いられてきました。江戸時代から始まる産業としての漆器生産は現在の会津の漆器産業へとつながり、近現代以降の東京・京都などとの交流によって進んだ技術と表現力の向上は、「漆器」を会津の伝統工芸品として広く認識させるに至らせています。

本展では、縄文時代から現代まで連綿と続く会津と漆の関係を振り返りながら、漆文化の奥深さを紹介するとともに、現在漆を素材として用いて活躍している日本各地の作家の作品から、これからの漆表現の可能性を探ります。　（美術担当　小林めぐみ）

助成：㈶地域創造

夏山晴霽蒔絵飾皿
津田得民作
個人蔵・福島県立博物館寄託

■会期　平成二二年一〇月九日（土）～一一月二八日（日）

information

企画展

※は要申込

ふくしま森林文化企画展
「森に生き山に遊ぶ！―ふくしまの森林文化―」
会期　6月26日(土)～8月22日(日)
入場無料
◎企画展関連行事
※樹木観察会「鶴ヶ城の樹木」
講師　福島県植物研究会会員・会津生物同好会会員
　　蓮沼憲二さん
日時　7月11日(日)10時～12時　鶴ヶ城
対談「山の技術と資源の活用―吉野と熊野のフィールドから―」
講師　東北学院大学講師　加藤幸治さん
　　奈良県教育委員会　森本仙介さん
日時　7月17日(土)13時30分～15時　講堂
講演「森は動いている―樹木の長い一生を科学する―」
講師　東北大学大学院生命科学研究科教授
　　中静　透さん
日時　7月18日(日)13時30分～15時　講堂
対談「会津の森を語りあかそう」
講師　山口大学教授　湯川洋司さん
　　専門員　佐々木長生
日時　8月1日(日)13時30分～15時　講堂
実演「いろいろ実演いろいろ体験　曲げわっぱ・手挽きろくろ・根曲がり竹」
講師　伝統技術保持者
日時　8月8日(日)11時～15時　実習室・体験学習室

テーマ展

※常設展料金でご覧になれます

「ふるさとの考古資料1―【会津若松市】遺跡探訪―」
会期　5月29日(土)～平成23年5月15日(日)
○テーマ展関連行事
「大和の大王墓と会津大塚山古墳」
講師　前福島県考古学会長　穴沢咏光さんほか
日時　7月31日(土)10時30分～16時40分　講堂
「白虎隊の図像学」
会期　6月12日(土)～8月1日(日)
「けんぱくの宝２０１０」
会期　8月7日(土)～9月12日(日)
「相馬地域の干拓」
会期　9月7日(火)～3月31日(木)

ポイント展

※常設展料金でご覧になれます

「化石でみるブナ林」
会期　7月6日(火)～9月5日(日)
「三角縁神獣鏡と会津の銅鏡」
会期　4月20日(火)～9月26日(日)
「風船爆弾の気球」
会期　7月7日(水)～9月14日(火)
「落下傘で作った着物」
会期　7月22日(木)～8月22日(日)
「沼沢出雲守家臣連判状」
会期　9月2日(木)～9月26日(日)
「相馬岡田文書」
会期　9月2日(木)～10月11日(月・祝)
「桧原湖の埋没林」
会期　9月7日(火)～10月31日(日)
「死者を見守る顔」
会期　9月11日(土)～3月27日(金)
「和同開珎」
会期　9月11日(土)～11月23日(火・祝)

移動展

いわき市考古資料館第1回企画展・福島県立博物館移動展
「金冠塚古墳と勿来地区の飛鳥時代」
会期　4月21日(水)～8月31日(火)　いわき市考古資料館

ミュージアムイベント

○ＦｏｒＫＩＤＳプログラム
宿題相談会
アドバイザー　学芸員　竹谷陽二郎ほか全員
日時　7月28日(水)10時～16時　エントランスホール・展示室
　　7時29日(木)10時～16時　エントランスホールほか
※「ナイトミュージアム」ｆｏｒ　ＫＩＤＳ
担当　学芸員　佐藤洋一・相田　優・金澤文利ほか
日時　8月21日(土)17時～19時　展示室
○ミュージアムイベント
「コシェル ラムジカ セピア色の音楽会」
演奏　コシェル ラムジカ
　　安ケ平由希絵さん・神田由布子さん
　　・渡部史子さん
日時　9月18日(土)13時30分～15時　エントランスホール

木曜の広場

『遠野物語』を読む4
講師　館長　赤坂憲雄
日時　7月1日(木)13時30分～15時　講堂
『遠野物語』を読む5
講師　館長　赤坂憲雄
日時　8月5日(木)13時30分～15時　講堂
『遠野物語』を読む6
講師　館長　赤坂憲雄
日時　9月2日(木)13時30分～15時　講堂

講演・講座

※は要申込

○歴史講座
人物シリーズ1「戦国大名の話」
学芸員　高橋　充
日時　9月4日(土)13時30分～15時　講堂
○美術講座
展示室講座「白虎隊の図像学」
講師　学芸員　川延安直
日時　7月4日(日)13時30分～15時　視聴覚室・展示室
展示室講座「けんぱくの宝２０１０」
講師　学芸員　川延安直・小林めぐみ
日時　9月11日(土)13時30分～15時　視聴覚室・展示室
○民俗講座
映像から学ぶ民俗学2「奥会津の木地師」
講師　学芸員　榎　陽介
日時　7月10日(土)13時30分～15時　講堂
映像から学ぶ民俗学3「茂庭のくらし」
学芸員　二瓶浩伸
日時　8月22日(日)13時30分～15時　講堂
○自然史講座
「みどりの地球をつくった植物たち
　―木村達明コレクションの中生代植物化石―」
講師　学芸員　小澤義春
日時　9月25日(土)13時30分～15時　視聴覚室
○考古学講座
※「土器作り1」
講師　学芸員　大竹正浩ほか
日時　7月24日(土)10時～15時　実習室
※「土器作り2」
講師　学芸員　大竹正浩ほか
日時　7時25日(日)10時～15時　実習室
※「高校生のための考古学集中講座1」
講師　学芸員　田中　敏ほか
日時　8月4日(水)10時～16時　野外
「高校生のための考古学集中講座2」
※講師　学芸員　田中　敏ほか
日時　8月5日(木)10時～16時　実習室
※「高校生のための考古学集中講座3」
講師　学芸員　田中　敏ほか
日時　8月6日(金)10時～16時　実習室ほか
※「土器の野焼き」
学芸員　大竹正浩ほか
日時　9月26日(日)10時～15時　野外

実技講座

※三島の編み組細工2「ヒロロ細工」
講師　伝統技術保持者　菅家藤一さん
日時　9月12日(日)13時30分～15時　実習室

実演

「昔語り3」
語り部　横山幸子さん
日時　8月29日(日)13時30分～15時　体験学習室
「昔語り4」
語り部　山田登志美さん
日時　9月26日(日)13時30分～15時　体験学習室

指導者向け研修講座

※「博物館利用指導者研修会」
学芸員　小澤義春ほか
日時　8月19日(木)9時30分～16時　実習室

やさしい展示解説

＊展示解説員による常設展総合展示の案内です。
＊毎週土曜日、日曜日の11時と14時から30分ほど行います。

＊要申込の行事は基本的に開催日の1ヶ月前から募集を開始しますが、異なる場合もありますのでお問い合わせください。
＊その他、漆の芸術祭関連行事等の詳細につきましては、月行事予定やホームページをご覧ください。

常設展無料開放日

8月21日(土)県民の日・9月20日(月)敬老の日

7月～9月の休館日

7月　5日(月)・12日(月)・20日(火)・26日(月)
8月　2日(月)・9日(月)・23日(月)・30日(月)
9月　6日(月)・13日(月)・21日(火)・27日(月)

季刊博物館だより　97号　2010年6月28日発行　編集・発行　福島県立博物館　〒956-0807　会津若松市城東町1-25　TEL0242-28-6000　印刷　株式会社アポロ　会津若松市七日町14-7　TEL0242-22-5139

リサイクル適正◎